

管されるやうにホリ組合員二万五千名を有すると云ふ事實を附加する位である。従つて是等のものは、英米に於ける消費組合の所謂「明日の國家」の重要なる使命を認識し達成せんとする目的を持つるものではある。

(三)

純然たる労働者の自治により経営された組合の中相當の成績を挙げ得たと云はれて居るのは、東京に於ける友愛會員の鉄工部、京橋聯合會を中心として組織された月島購買組合である。該組合は大正三年三月二十四日京橋区月島通三丁目五番地に店舗を開き全鉄工部員のみならず、維持経営されたものであつて、出資一口に付金五円、第一回掛金一口に付一円と云ふ規約の下に、雜貨、砂糖、醬油、薪炭等と組合員間と配給した。然らば其の當時の組合運動者には消費組合に対し如何なる意識を持つたかを觀察して見ると、該組合の趣意を日工部を援護して見ると曰く「(一)……唯單に安い物を買つたり賣つたりすると云ふばかりでなく、即ち労働運動と云ふ方面から見ると夫が如何に云ふ役に立つかと云ふことである。

今更云ふまでもなく労働運動も最早や雜誌や講演のみに空論を戦はす時代ではある。一層進んで労働者の精神的團結、經濟的實力を鞏固にせねばならぬ時と

あつた。……凡そ精神的團結と經濟的實力とは相伴はねばならぬ。労働團體の經濟的實力とは團體が莫大の莫大な金を持つて居ることである。労働團體は之を以て自ら發行する労働保險の持主たるべきが義務を持つて居る。本組合が購買組合を組織した一連の費用、不利益も其を世ある種中其之を悉く承けて、漸く經濟的實力を以て之を以て之を以て存する……」。是に依つて見るも當時の労働組合の趣意を以て成すべき要件を有して居たことと認め得るのであるが、その目的は社會主義の實現に在り、消費組合であることと云ふ點に於ては要するが故に、此に於て労働組合自身は「漸次經濟的實力を以てて行こうと云ふこと」を基本として居ると共に、現存の消費組合運動も其の父があるのではあるかと思ふ。

該組合が大正八年頃には組合員三百餘名を有し資金千八百円を計上して居た。該組合は本部の自給足らざりし爲め、又組合員の協同的意識、定むべきに爲り、間もなく解散した。然し消費組合運動に對する熱意は益々増大し、大正九年十月二十九日純労働者組合を立ち上げた。東京市外大田區、野宮又組合大島共働社が創立され、續いて大正十年六月頃大阪には企業共立黨會及その下に姉妹組合大阪共働社が設立され、總同盟市、大阪汽車會社の労働組合が中心